

# 期待膨らむ「運転代行」権限移譲

今年4月より地方分権一括法に基づき、国土交通省が担っていた運転代行の事務・権限の一部が都道府県に移譲される。同省は各地で説明会を開き、今年初旬にも第2回目を行う。移譲マニュアルの作成を検討するなど準備は進む。移譲を前に運転代行業者の期待や不安はいかに。現場では、取り締り権限を持ち、関係の深い県警察の役割が変わらないこともあってか、権限移譲を不安視する声はなく、地域の事情に沿った細かい施策への期待感が強い。各地には、飲酒運転防止などの活動を含め、より地域への貢献と密着度を深める運転代行業者の姿があった。



右から2人目が中山社長。その左隣が妻の邦子さん。家族一同が従業員として支える(昨年12月11日、土浦市のクリーン運転総合代行本社で)

## 茨城県土浦市

### 同業23社が連絡協議会

## 「みんなの仕事増やす」

### 中山一夫・クリーン運転総合代行社長

「権限移譲は大歓迎だ」と語るのは茨城県土浦市のクリーン運転総合代行の中山一夫社長(59歳)。創業以来28年間、地元で運転代行業への信頼を高め、県警とのパイプを強めてきた実績ゆえの言葉だ。中山氏は公益社団法人全国運転代行協会(丹澤忠義会長)の茨城県支部長で、土浦地区運転代行連絡協議会会長も務める。権限移譲後、地域社会への貢献や存在感アピールはより重要になると考えられるが、県議会や行政、地元商工会議所との関係づくりの面で、土浦はすでに成功事例と言える。

中山氏は「今は代行業者同士が助け合おうべき時代。お客さんに安心してもらう、仕事を増やすのには、みなで仕事を増やすべきだ」と語る。規模の大小や加入共済の違いを超え、土浦では地域の業者が一つにまとまっている。

中山氏の会社は随分車庫18台、従業員約30人と地元の資あいさつし、市長や県議とも交流。来年はパレード参加も打診されるなど高い評価を受けた。

中山氏は「ここが心臓」と感じる。中山氏は「ここが心臓」と感じる。中山氏は「ここが心臓」と感じる。

## 香川県東かがわ市

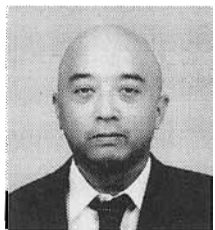
### 県と警察連携など

## 健全化つながれば

### 泉勝友・IC代行社長

香川県東かがわ市にあるIC代行の泉勝友社長は、一昨年12月、全国運転代行共済協組(小向理事長)の香川県総代に選出された。

泉勝友社長は「東かがわ市は過疎化が進む地域。多くの住民が車で1時間かけ、高松市まで通勤しており、泉社長は「車がなければ仕事にも就けない状況」と語る。それだけ権限移譲後は、地域活動を通じ、県や県警とのパイプを強めていくこともより重要となる。地元での活動では、昨年9月、東かがわ市相生(ささぎ)町まつり」で飲酒運転根絶の啓発映画「0(ゼロ)からの風」の上映会を開催。12月には香川県警、香川運輸支局と連携し、乗客が随伴車に乗らないよう、乗客と事業者双方に呼び掛ける啓発ビデオを作成している。



泉勝友社長

地元の祭りで開いた「ゼロからの風」上映会(運転代行振興機構提供)。公益財団法人として全国各地で上映会など飲酒運転根絶活動を行っている。

※朱線は、ジェイ・ディ共済協同組合にて付記。